

編集後記

9月に入りようやく灼熱の季節から脱してまいりましたが、9月から10月にかけては、例年台風の襲来が多い時期でもあります。また、先般、北海道であった地震や桜島の噴火なども含め、自然災害への警戒をしていかねばなりません。

誌上ギャラリーは、尊田和徳先生の「星野村の棚田」です。鹿児島ではなかなかお目にかかるない風景です。

「論説と話題」は、九州学校保健学会が主催ですが、鹿児島県医師会と鹿児島県小児保健協会が共催した第66回九州学校保健学会の年永、帆北両理事による報告です。本医報編集委員森岡康祐先生の指定講演を始め、現在の学校保健で重視される課題についての講演やシンポジウムが行われました。

「医療トピックス」では、医師会病院薬剤部の福元裕介先生より「Clostridium difficile 腸炎の治療・再発抑制薬」と題して、2種類の強力な外毒素を産生する嫌気性グラム陽性桿菌である Clostridium difficile により引き起こされる腸炎の治療・再発抑制薬について分かりやすくまとめていただきました。日常診療に大いに役立つ記事であると思います。

「学術」には、今村総合病院の上床美紀先生に「施設入所中に短時間の経過でCrush症候群を発症した高齢女性の一例」をご執筆いただきました。Crush症候群は事故や災害時に発症してくるものを思っていましたが、高齢者では施設内での転落を機にしかも短時間に発症してくる症例があることを知り、注意を払わなければならぬことを知りました。

「随筆・その他」は、まず古庄弘典先生による「切手が語る医学」は世界の医師・偉人・著名人の切手の紹介です。また、小田原良治先生には「シリーズ医療事故調査制度とその周辺(20)」をご寄稿していただきました。20回にわたって連載していただき

ました同シリーズも最終回を迎めました。医療事故調査制度は「医療の内」(医療安全)の制度であることを肝に銘じなければいけません。その他、武元良整および米澤英之先生から投稿していただきました。今後も会員の先生方の積極的なご投稿をお願いいたします。

「区・支部だより」では東区と谷山・中洲支部の活動を報告していただきました。

「各種部会だより」は、内科医会8月例会、第1回在宅医療・介護従事者向け研修会の報告です。各専門分野で研鑽を積んでおられる会員の先生方の姿が浮かんでまいります。

「各種報告」では、第1回医師会病院協力運営委員会、在宅医療小委員会、第2回医師会病院あり方委員会、臨床検査センター協力運営委員会、医報編集委員会の委員会報告と平成30年度第3回医療安全管理研修会について報告しました。

「附属施設だより」では、医師会病院の平成30年7月の診療・収支実績を報告しました。本医報の本年第9月号に上ノ町会長が「2億円 = 90%以上」と題してつぶやいておられましたが、医師会病院の経営はまだまだ安定していません。会員の先生方のさらなるご利用をお願いいたします。また、週間診療案内と外来週間スケジュールを掲載しておりますので、参考にしていただけたら幸いです。何かご不明なことがありましたなら、お気兼ねなく医療連携・相談室にご連絡ください。

最近、「鹿市医郷壇」の影が薄くなっています。歴史あるこのコーナーを活発にしていきたいと思いますので、是非、多くの会員の皆様からの投句をお待ちしております。

このたび、編集委員長を拝命いたしました。歴代の委員長の名を汚さぬように、会員の先生方への情報提供に努めたいと気持ちを引き締めております。

(編集委員長 長友 医継)